

奥秩父縦走報告

2009 年 1 月 4 日(日)－ 9 日(金)

メンバー：後藤博志 (M2)

只左一也 (M2)

1 日目：塩山駅→(タクシー)→新地平→雁峠→
雁坂小屋 (幕営)

2 日目：雁坂峠→甲武信小屋 (冬期小屋泊)

3 日目：甲武信小屋→国師ヶ岳→大弛 (幕営)

4 日目：大弛→金峰山→大日小屋 (幕営)

5 日目：大日小屋→瑞牆山→大日小屋→大日岩
→八丁平→小川山南尾根の 2270m 地
点(小川山から 1.5km 地点) (幕営)

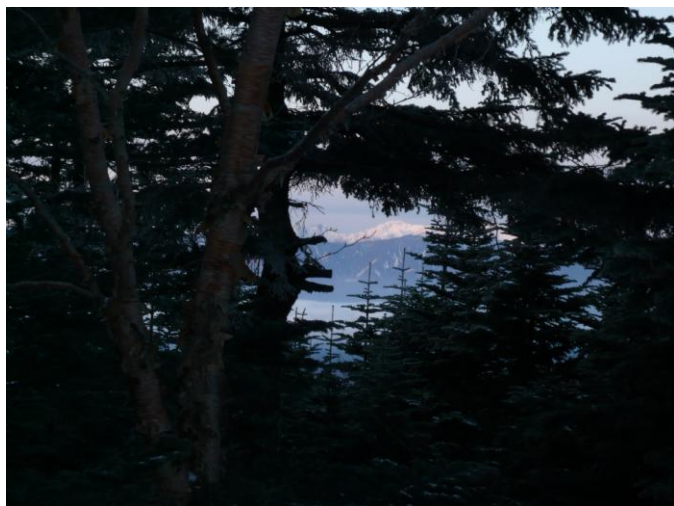
6 日目：幕営地→小川山→廻目平→川端下バス
停→(バス) →小海線信濃川上駅

4 日目 (1 月 7 日(水))

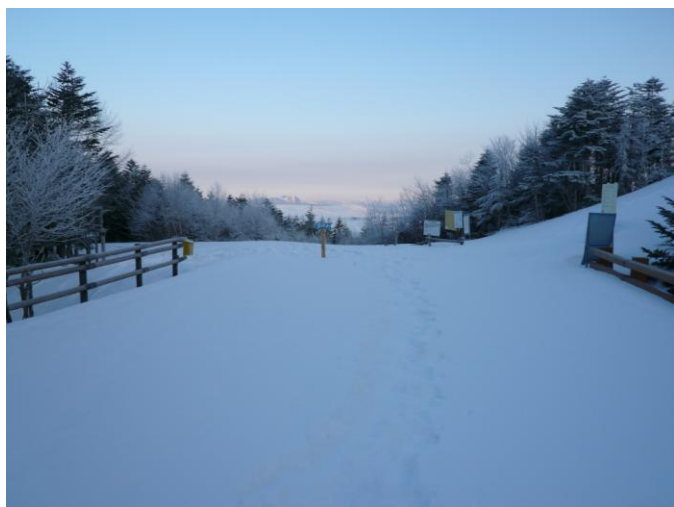
起床	05:00	
大弛小屋		07:10 発
朝日岳	09:10 着	
金峰山	10:10 着	11:50 発
大日岩	13:20 着	14:05 発
大日小屋	14:25 着	(幕営)
		(歩行時間：5 時間)



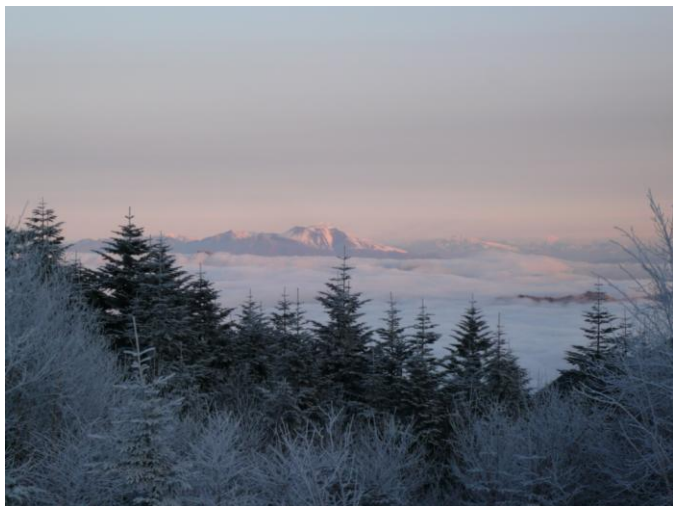
7 時過ぎに大弛峠を出発。準備に手間取って、出発が
少し遅くなってしまった。この日も朝から青空。



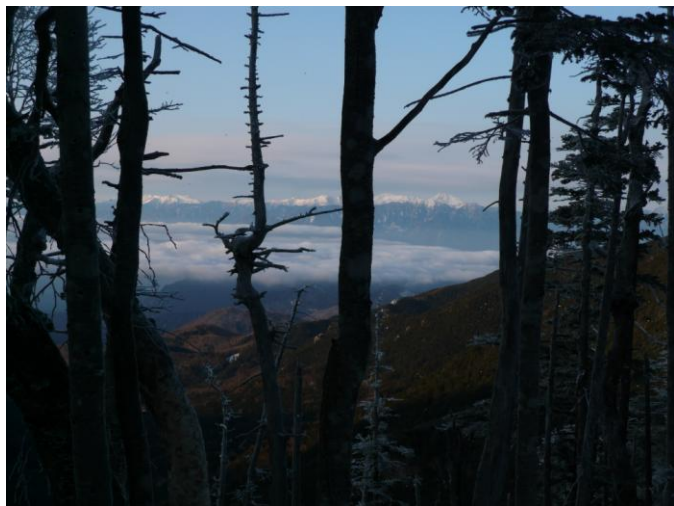
樹林の間からは南アルプスが



舗装されている川上牧丘林道の大弛峠。標高は 2365m。
さすがに轍はなかった。雪は 30cm 程度。



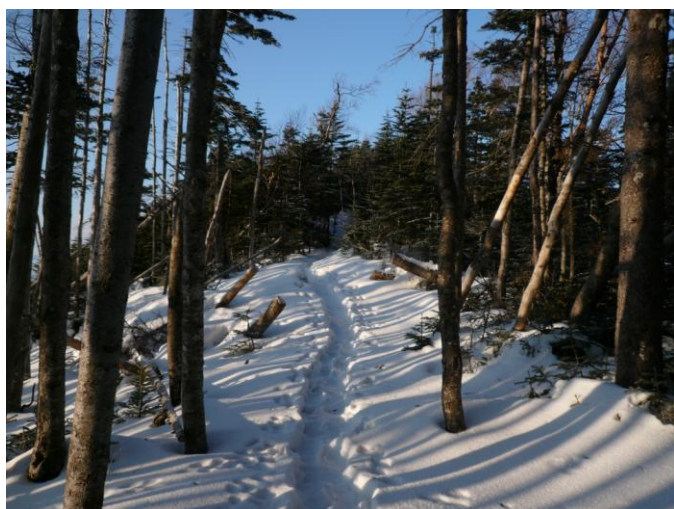
朝日に輝く浅間山



南アルプス



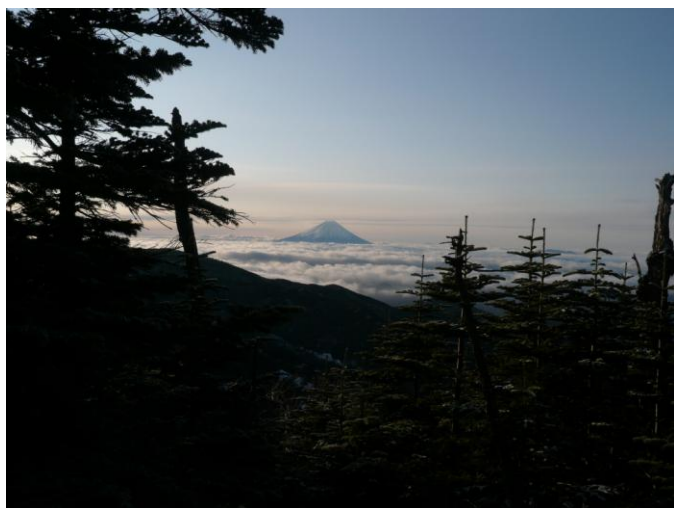
金峰山方面登山道の入り口



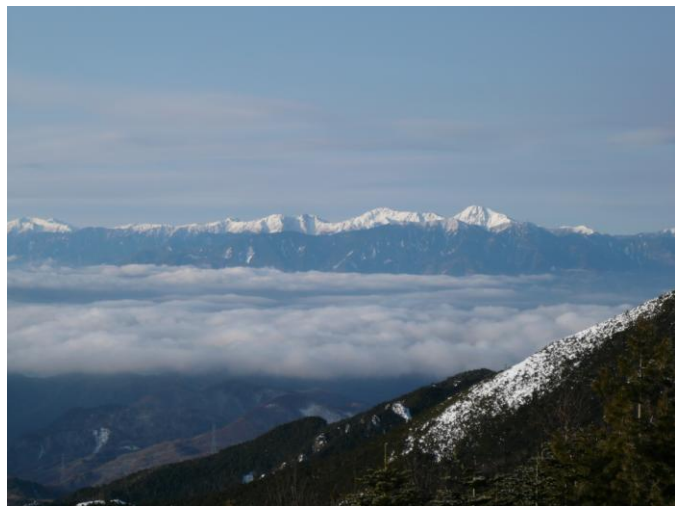
朝日岳までなだらかな道が続く



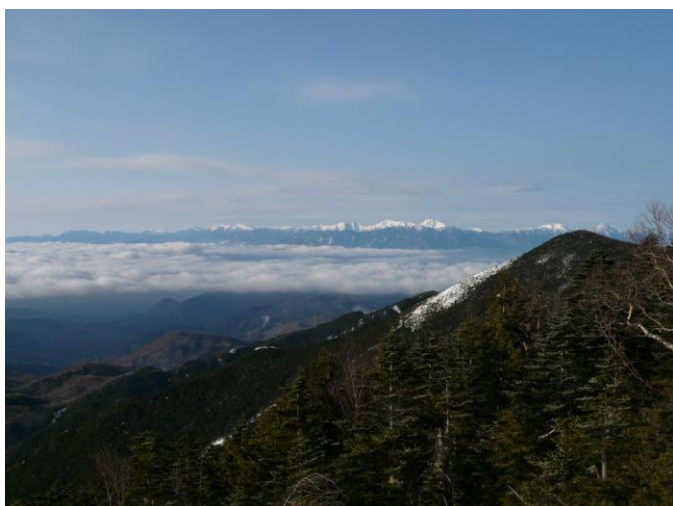
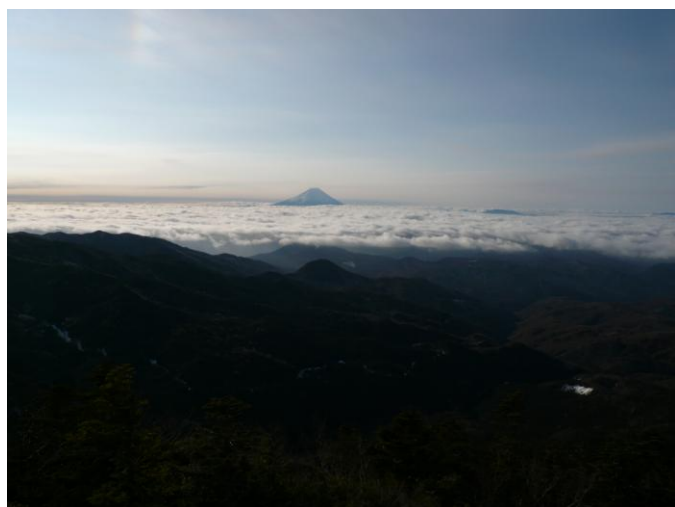
ここもトレースがはっきりしている。ウサギの足跡が多い。



この日も快晴だが、南の方がまた霞んでいて雲が多い。



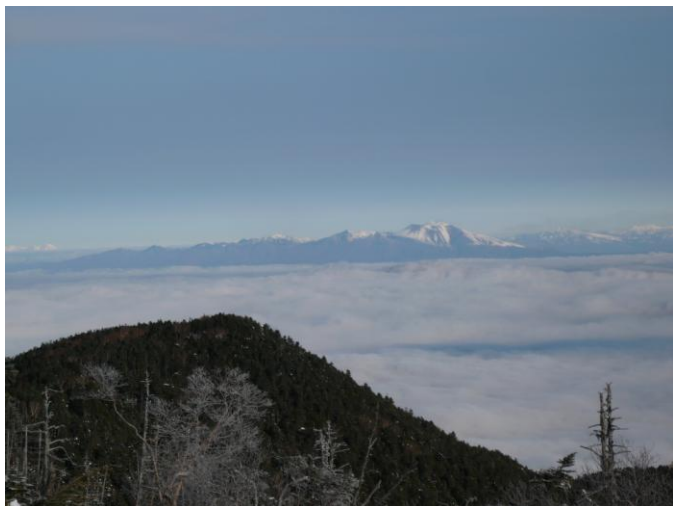
中央は白峰三山（右から北岳、間ノ岳、農鳥岳）



朝日岳山頂まであとわずかというところで、眺めのいい所に出た（大ナギ、2528m）。南アルプスが屏風のように連なる。



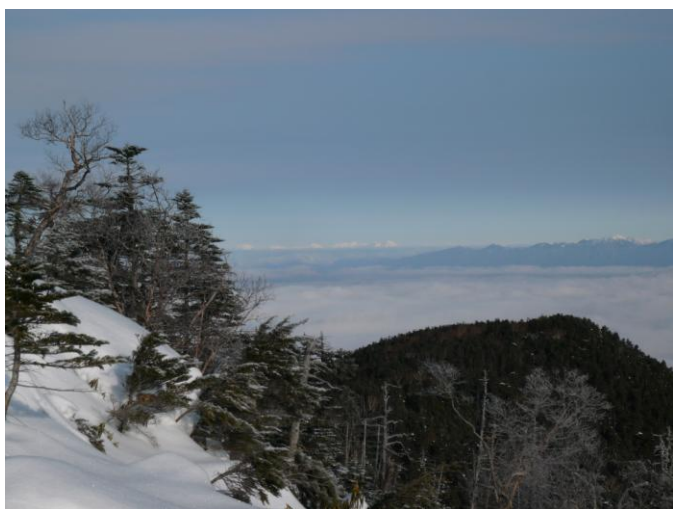
北の眺め。中央やや左は浅間山



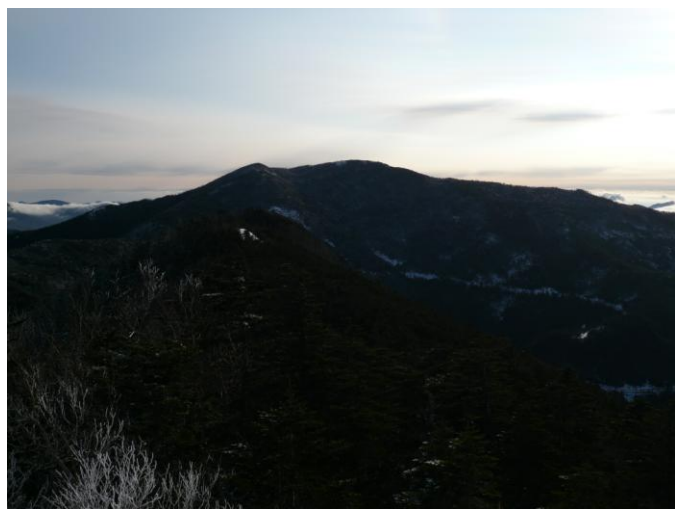
浅間山



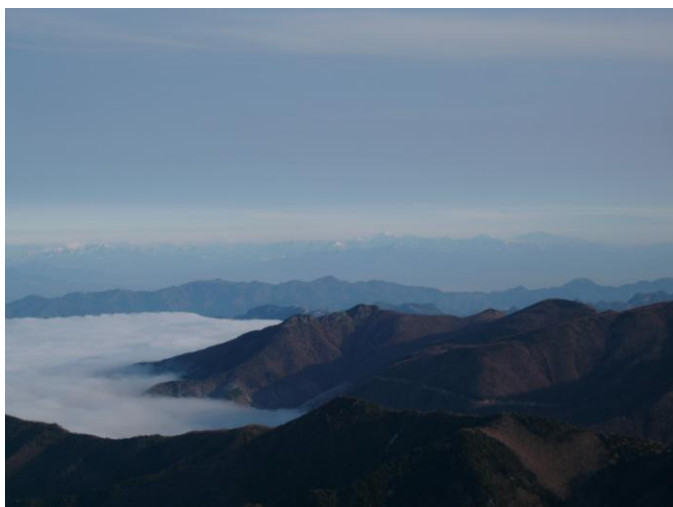
前日歩いた稜線。右端は北奥千丈岳、そのすぐ左の少し尖ったのが国師ヶ岳。左端のなだらかな山が三宝山、その右は甲武信ヶ岳、さらにその右が木賊山。



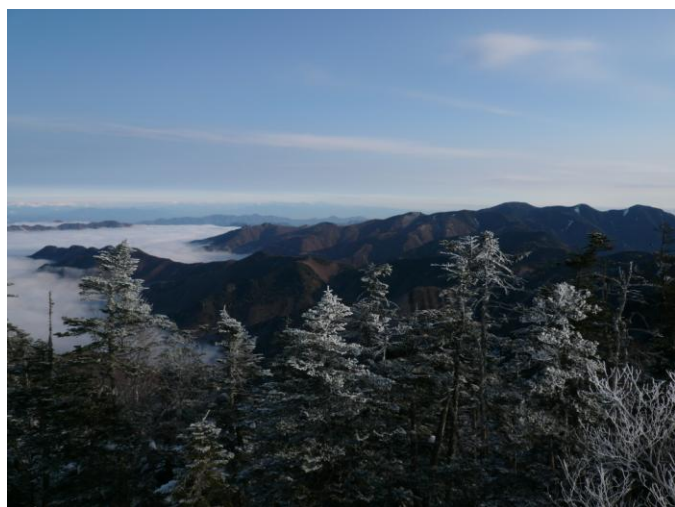
日本海に近い頸城の山々もくっきり（中央の真っ白な山々。右端は妙高山。）



北奥千丈岳（中央）と国師ヶ岳（中央やや左）



日光の山々の遠望。中央に日光白根山。



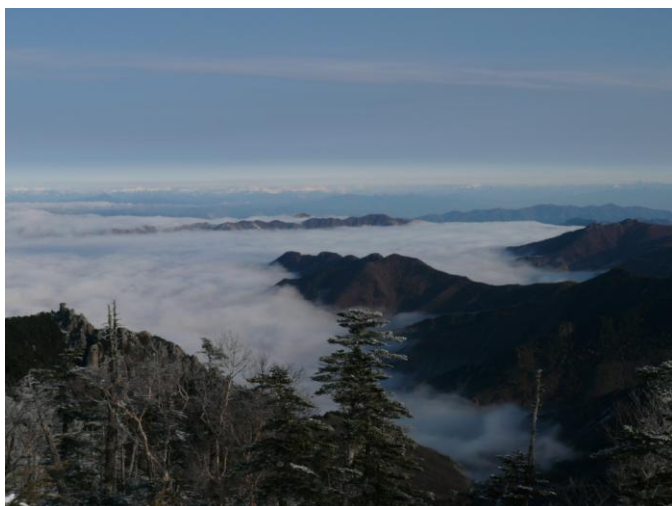
北東の眺め



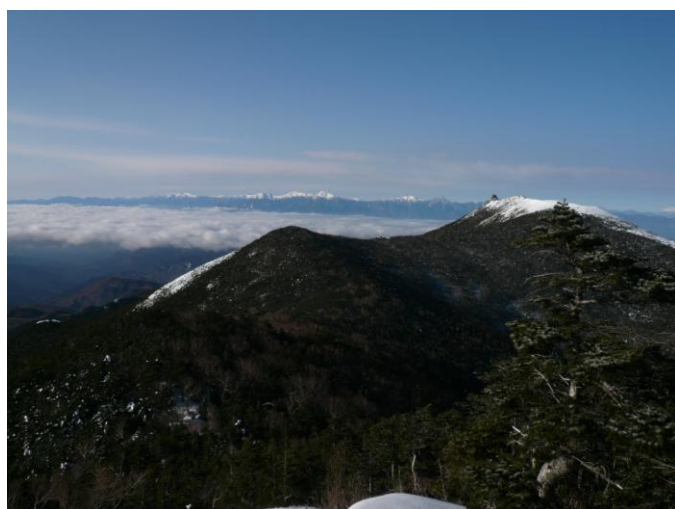
朝日岳山頂までわずかなのだが、眺めがあまりに素晴らしいので、ちょっと歩いては立ち止まっては遠くを眺め、写真を撮ってしまう。



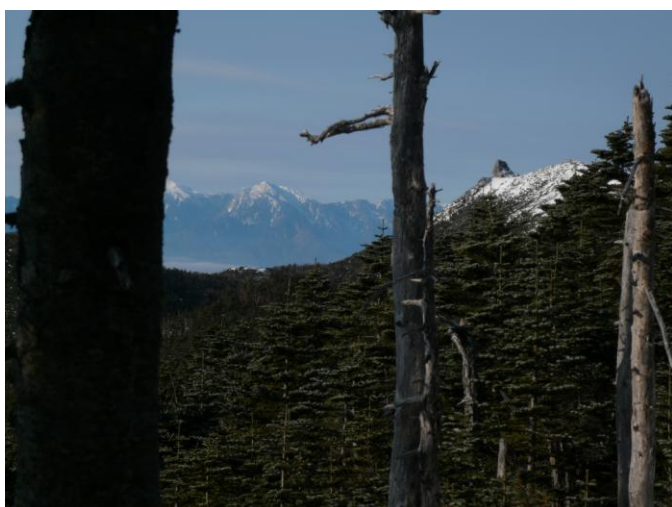
朝日岳山頂（2579m）に到着。



雲海の上に半島のように横に延びる稜線は三国峠～御座山の稜線。この稜線も是非歩いてみたい。



朝日岳山頂は展望がないが、西側へ少し下ると開ける。右は五丈岩の目立つ金峰山。中央やや左のピークは鉄山（2531m）。遠くは南アルプス。



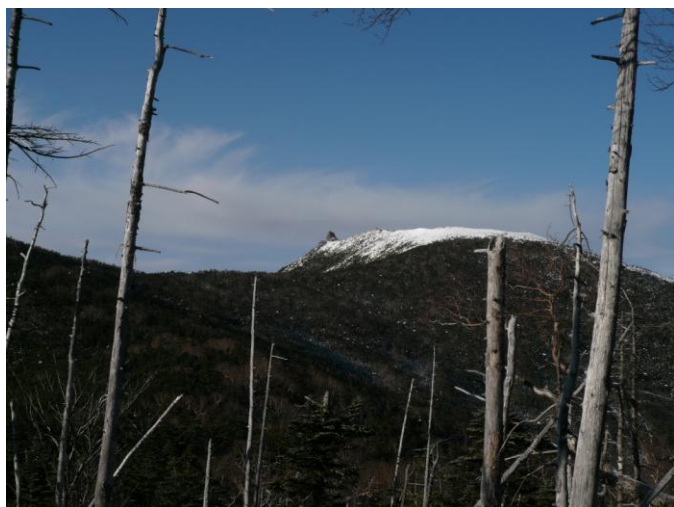
甲斐駒ヶ岳と五丈岩



遠くには御嶽山



朝日岳山頂から 100m ほど下る

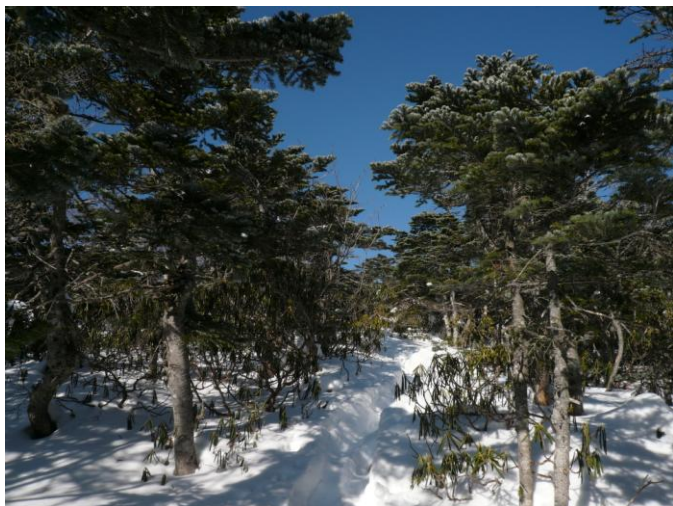


金峰山が近づく。道は鉄山山頂の北側を巻く。

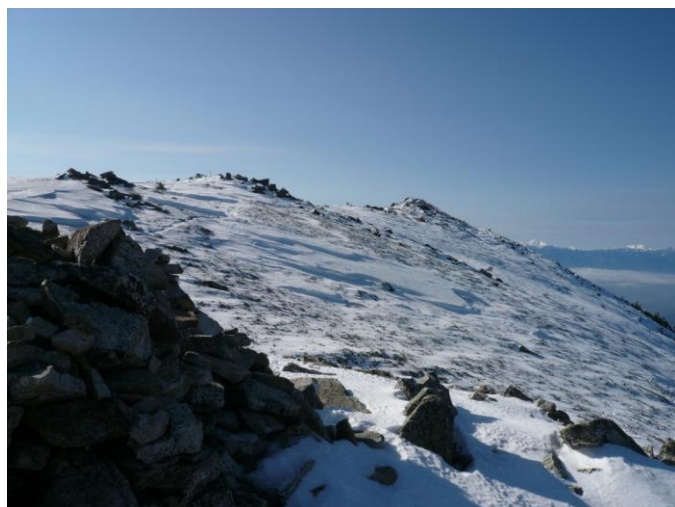


ウサギの足跡。奥秩父はとてもウサギが多い。

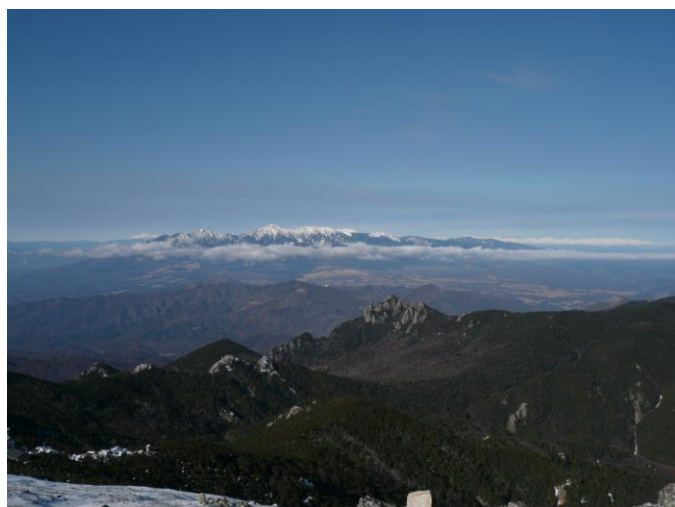




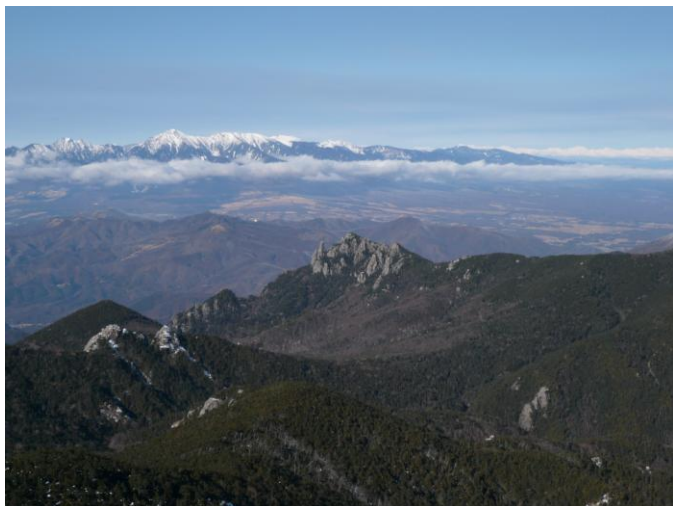
金峰山に登るにつれて、樹が低くなって疎らになり、明るい雰囲気になってきた。



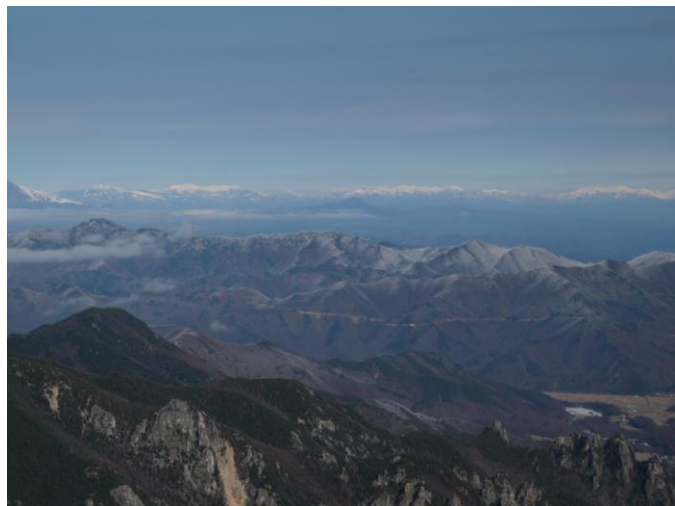
森林限界を超えた。金峰山は奥秩父の中で森林限界を超える唯一の山。金峰山のピーク（中央やや右）は目の前だが、素晴らしい眺めに見とれて長居してしまった。



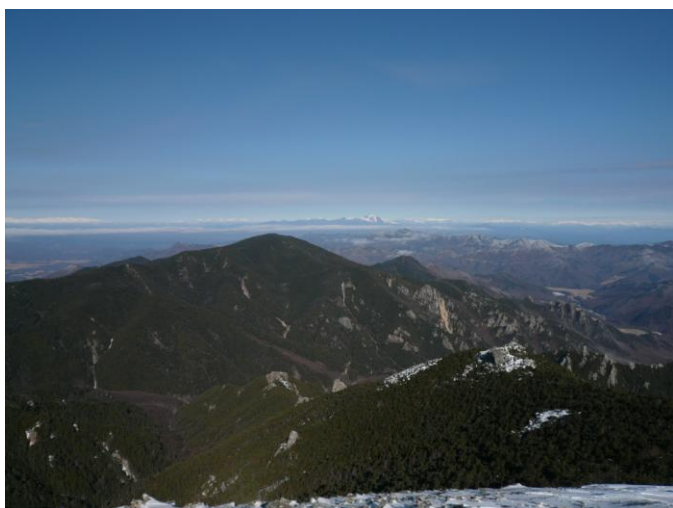
北東の眺め。八ヶ岳と瑞牆山。



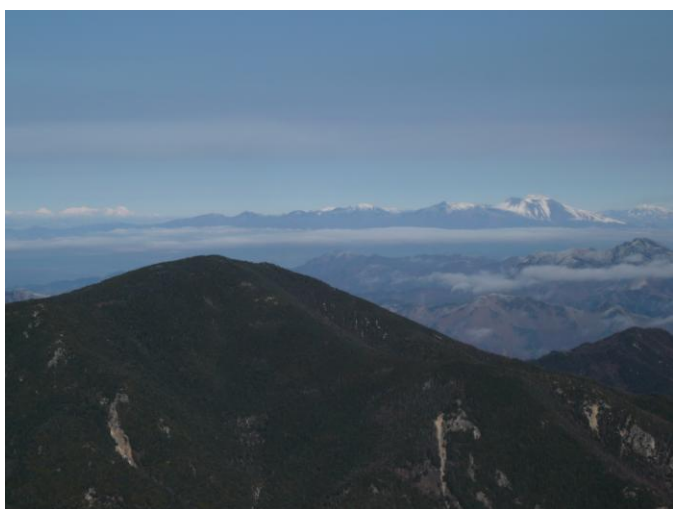
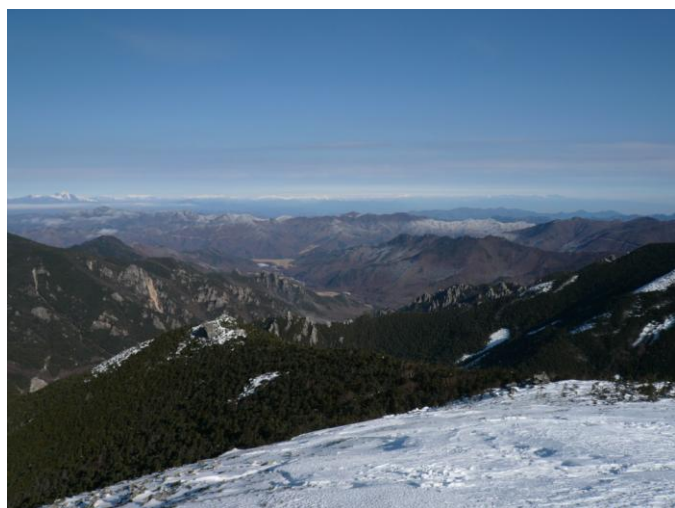
中央の岩山が瑞牆山（2230m）



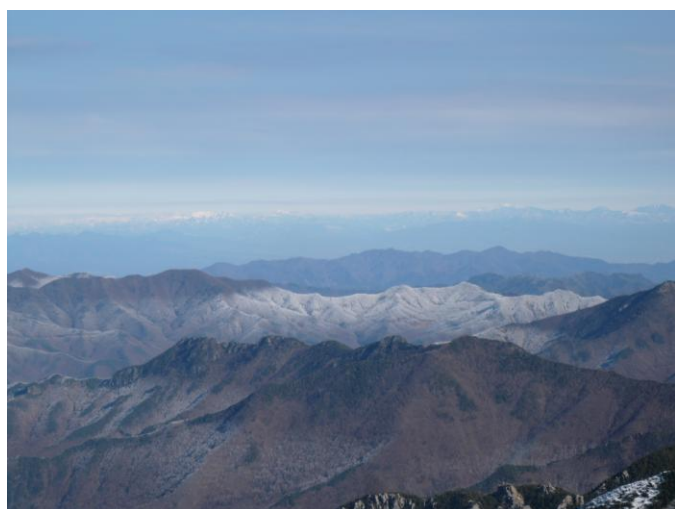
御座山（おぐらやま、2112m）から三国峠に続く稜線。
遥か遠くに、谷川連峰や上越の山々が連なる。



北の眺め。中央は小川山、遠くに浅間山や白馬連峰。



小川山の向こうには浅間山、そしてその左、さらに遠くに妙高山。



陽が当たって霧氷が輝く。この辺りは、1985年に日航ジャンボ機の墜落した場所。



小川山東斜面には奇岩が聳える。写真中央の盆地が、この山行の最終目的地、長野県川上村。



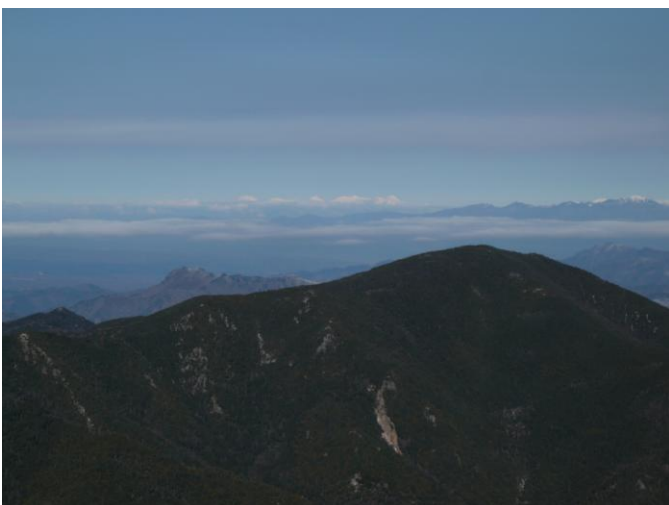
頸城の左には、北アルプス北部、白馬の山々が連なる。



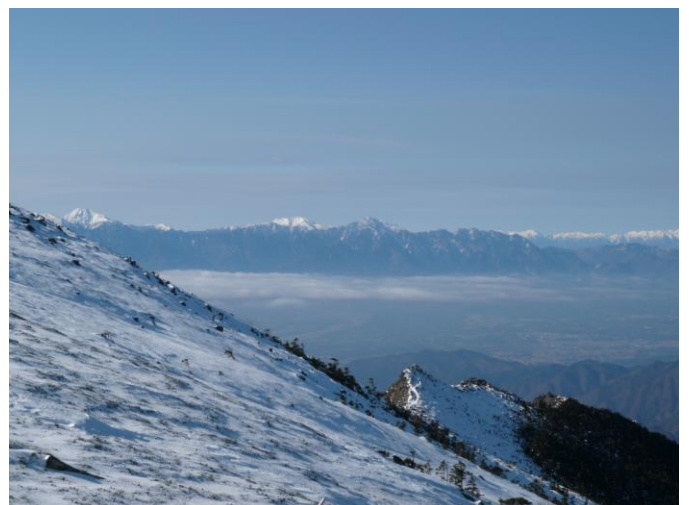
小川山～瑞牆山の稜線。最初はこの稜線を歩いてみたいと思って調べてみたが、やはり陰しすぎるようで歩いたという記録は見つけれなかった。



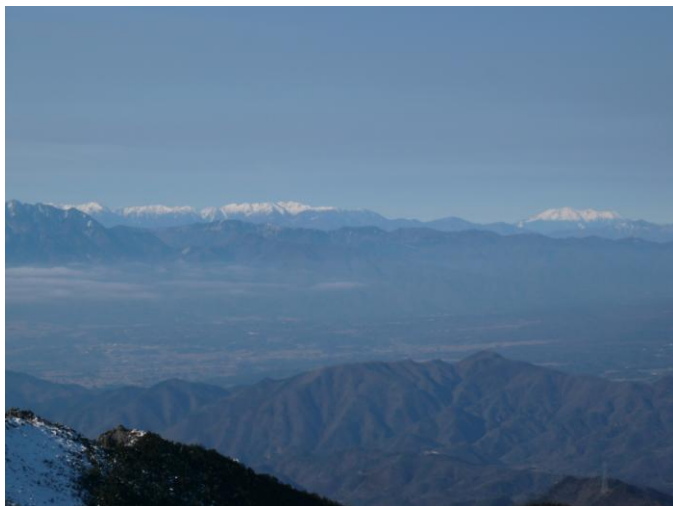
西の眺め。写真中央に中央アルプスと御嶽山、左に南アルプス北部。



再び小川山の彼方を眺める。中央は 10 月に縦走した頸城連峰（右から妙高山、火打山、焼山が連なる）。



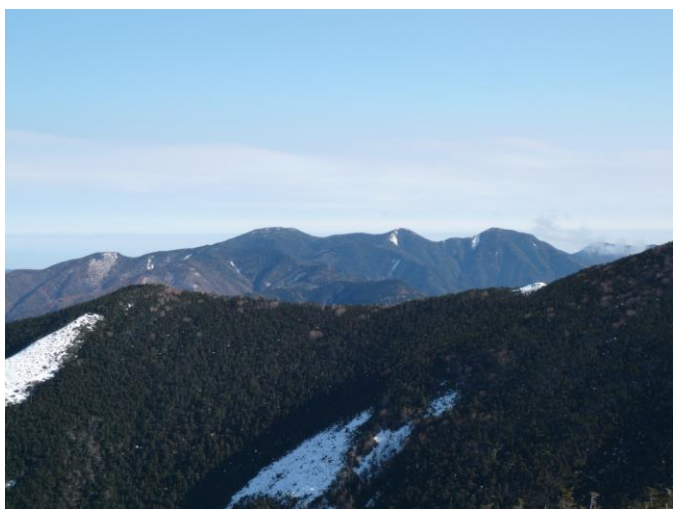
中央の雪の少ないのが甲斐駒ヶ岳、そのすぐ左の白いのが仙丈ガ岳、左端の高いのが北岳。右端は中央アルプス。



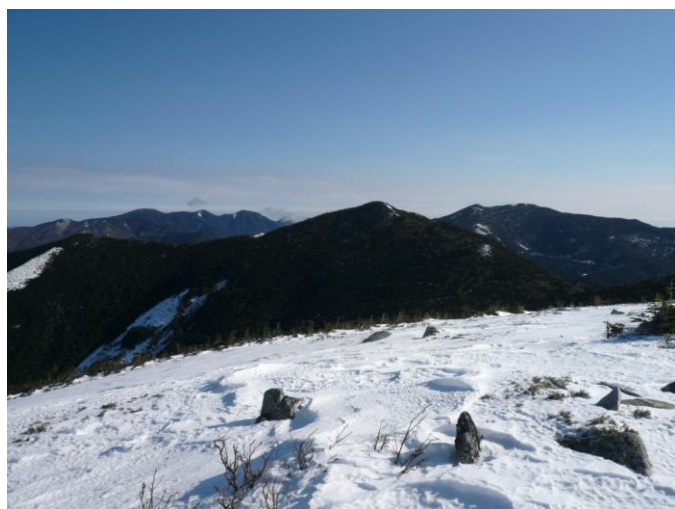
中央アルプスと御嶽山（右）の遠望



重い腰をあげて金峰山のピークへ。雪は 30cm ほど。



甲武信ヶ岳（中央）。その左は三宝山、右は木賊山。

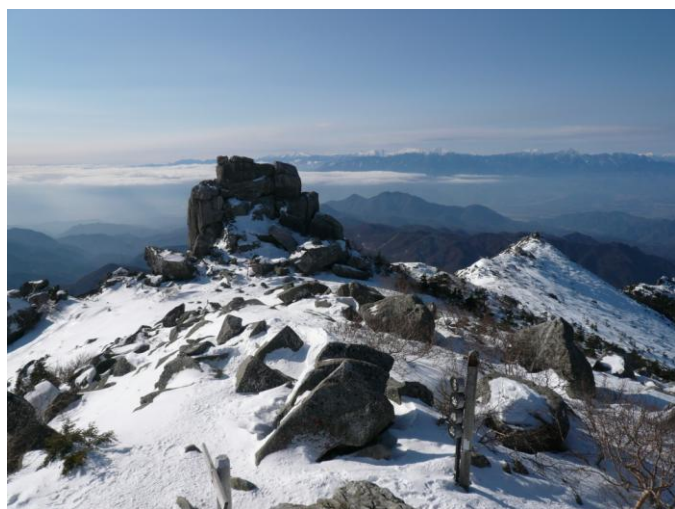


左手には奥秩父の主脈が連なる。中央は朝日岳、その右に国師ヶ岳と北奥千丈岳、左に甲武信ヶ岳。





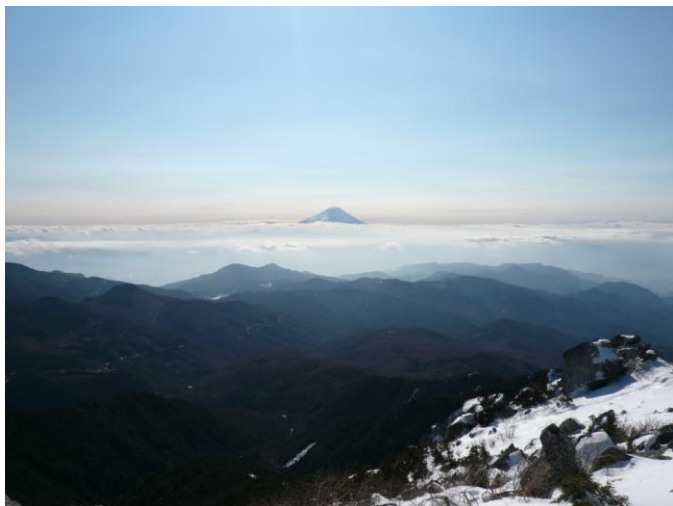
これが金峰山のピーク（2595m）。



ピークの岩の上から見た五丈岩。遠くは南アルプス。



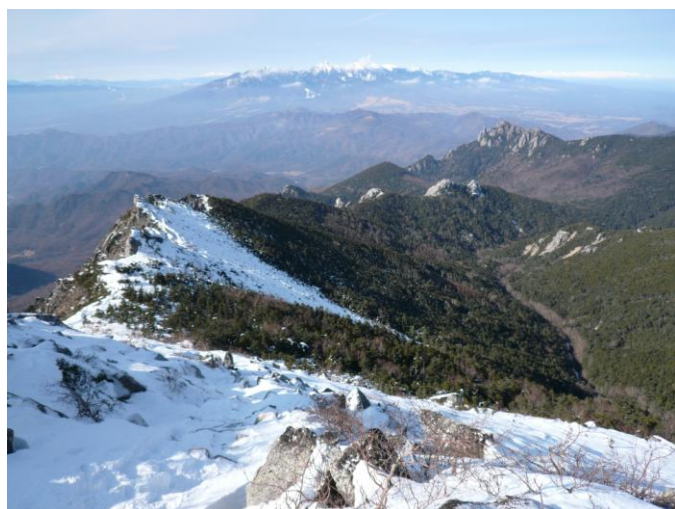
記念撮影。右が後藤、左が只左。



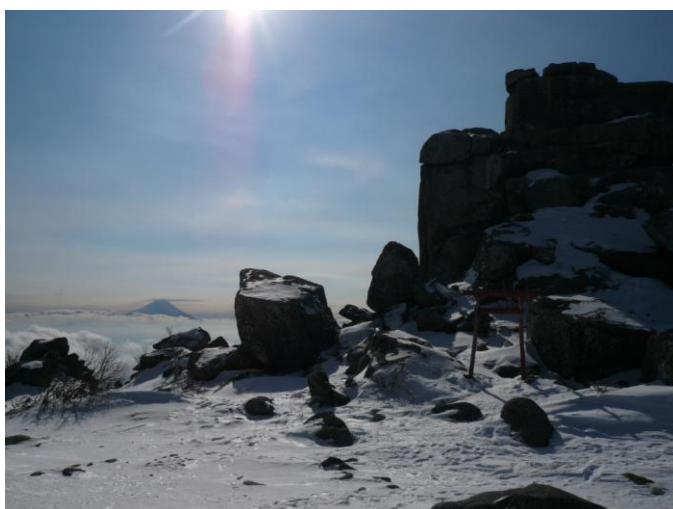
山頂にも、ウサギたちが歩きまわった跡があちこちに。



富士山に雲がかかり始めた。



山頂でのんびり昼食を取り、大目小屋へ。小川山へ続く稜線を下る。





南の眺め



稜線の南側は切れ落ちているが、特に危険を感じるようなところはない。



道は再び樹林帯の中に入った



「オットセイそっくりだ!」と二人で笑っていたが、
後藤が何を思ったか突然走り出し…



大日岩



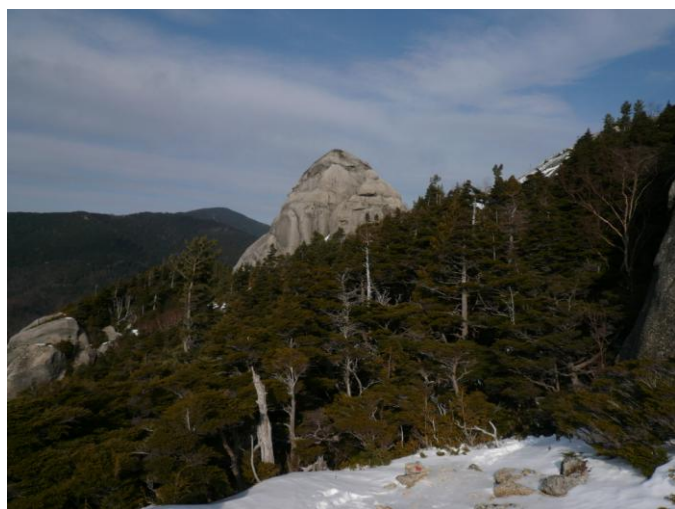
ここから大日小屋まで少し下る。山と高原地図には載っていないが、八丁平まで稜線沿いのルートがあるはずなので、翌日のために偵察することに。



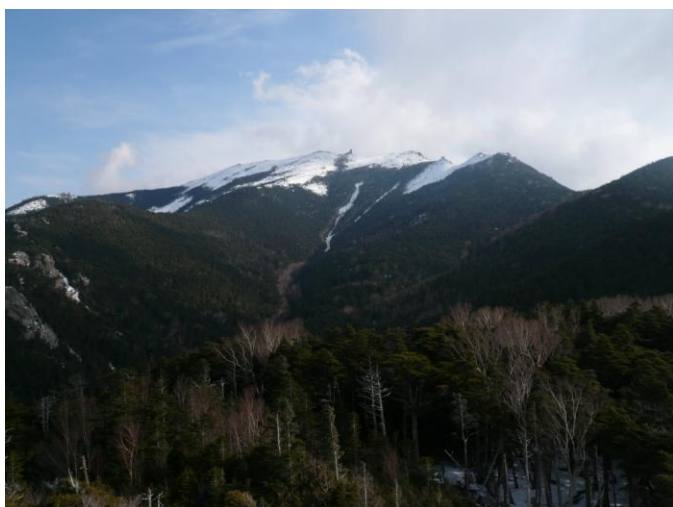
右は鷹見岩（2092m）



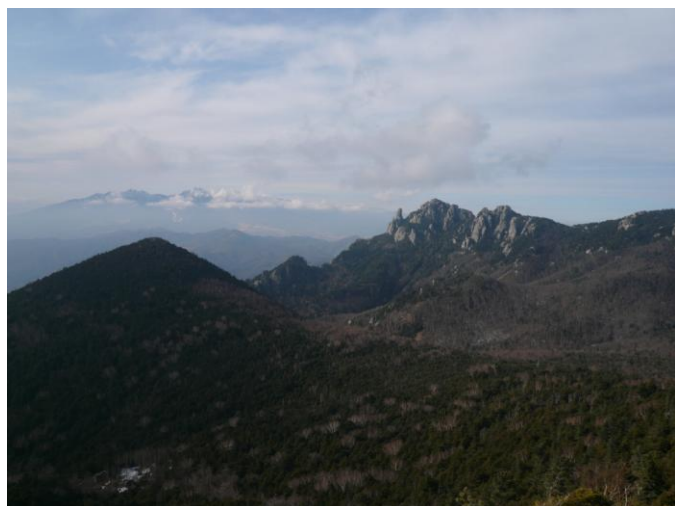
大日岩を超える。マークがしっかり付けてある。



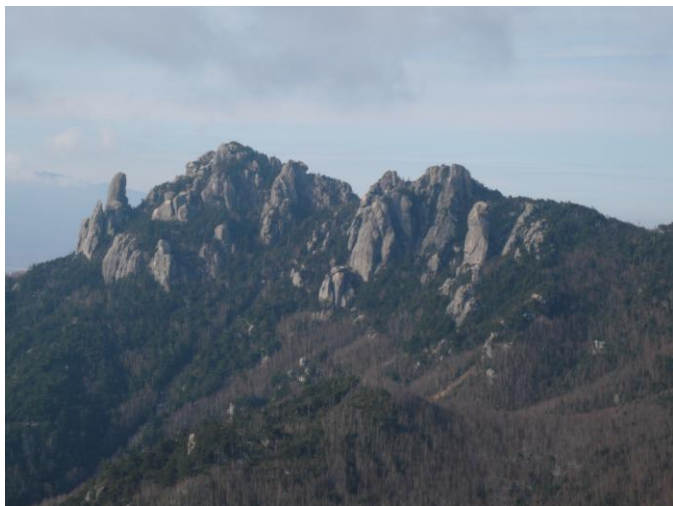
道はこの先、再び樹林帯の中を進む。トレースはないが、ルートははっきりしており、マークがしっかりついていて問題なさそうなので、小川山へは大日岩から稜線沿いのこのルートを進むことに決め、分岐点まで引き返した。



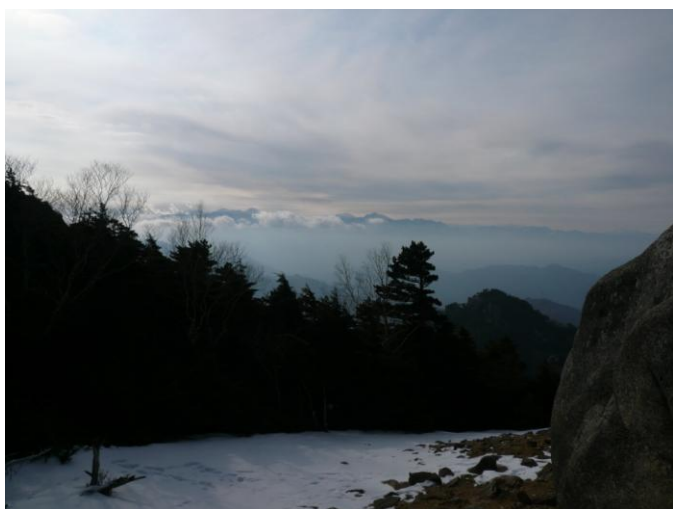
金峰山を振り返る



対照的な山容の瑞牆山（右）と飯盛山（左）



大日岩を振り返る



雲が多くなってきた



大日小屋のキャンプ場らしき場所



この日の宿泊予定地、大日小屋まで 20 分ほど下る。



大日小屋



水場には厚い氷が張っていたが、なんとか必要な量の水を汲むことができた。



大日小屋は今は無人で少し荒れているが、4000 円も払わないといけないので、私たちは小屋の横で幕営。この日も全く人に会わなかった。